

日野市立教育センター一報

# 教育センターだより

第35号 平成27年3月5日発行



2月19日・午後  
調査研究事業発表会

## 日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分



## 「冷静な頭脳と暖かい心」

日野市教育委員会 教育委員 濱屋 浩

今から130年前、英国のケンブリッジ大学で一人の経済学者が、教授への就任講演を行いました。その人物の名前は、アルフレッド・マーシャル。20世紀を代表する経済学者であるケインズの先生にあたる人です。講演の最後に今も語り継がれる有名な言葉があります。

「ケンブリッジ大学がつぎのような人たちをなるべく多く世に送り出すことに、僭越ながら力を貸すこと・・・このことを、私の心からの目標・第一の使命として行きたいと思います。それは、冷静な頭脳と暖かい心 (cool heads but warm hearts) を持って、社会で困っている人たちのために全力で取り組むような人たちです。」\*1

マーシャルの講演の13年前、日本では一冊の本が広く読まれていました。1872年に刊行された福澤諭吉の「学問のすゝめ」です。この本は単なる学問論にとどまらず、時代を超えて訴えかける人生論でもありました。江戸時代の支配的であった儒教の経典をひたすら学習することが学問の正しい道であるという学問観に対する批判として生まれた学問観を示しています。この二人には、共通点があるように思います。それは、学ぶということを、単なる既成の知識の体系ではなくて、まだ知られていないもの、未知なるものへの問いであり、その答えを求める過程を大切にしていることです。

昨年の11月20日に文部科学大臣より諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」のなかでも「学ぶ意味」が問われています。テーマの一つは、「これからの時代を、自立した人間として多様や他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力をどのように捉えるか」です。個別の論点としては、育成すべき資質や能力、教科・科目の在り方、指導方法、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の進め方などがあります。これからの議論にあたっては、背後にある経済格差や社会構造の変化を分析し、より望ましい法制度や社会のあり方を考え続ける「cool heads」と「warm hearts」のどちらが欠けてもいけないと思います。

教育センターはこれまで、様々な課題に向き合いながら、研究・研修・相談の分野で多くの成果を蓄積してきました。今後は、指導事例集や研究紀要のさらなる活用をはかり、「授業研究の日野」を支える取組みを推進するとともに、個々の悩みや課題を抱える子供たちの継続的な支援が課題になるでしょう。私も、個性豊かなひのっ子たちが自ら生きていく力を育めるように、「冷静な頭脳と暖かい心」の精神を忘れずに、教育センターの活動を支えていきたいと考えています。

\*1 神取道宏 「ミクロ経済学の力」日本評論社 P472 より引用

## 平成26年度 日野市立教育センター行事の報告

### わかば教室 音楽会

平成26年12月6日(金)  
日野市立教育センター 講堂



わかば教室では、毎年2学期の大きな行事として音楽会を開催しています。この音楽会には、日野市教育委員会、在籍校の先生方、教育センター所員、保護者を招待し、練習の成果を披露しています。今年度は、児童・生徒による合唱「世界中の誰よりきっと」や合奏「Let it go」を子ども達が、心を一つにして、歌ったり、演奏したりして、一生懸命表現していました。子供たちは、苦勞して取り組んできた練習の成果を発表できました。また、たくさんの方々からの拍手をいただき、大きな喜びと成就感を得ることができました。

当日は、明星大学教育学部音楽コースの皆さんもすばらしい演奏を聴かせてくださいました。

平成26年度 日野市立教育センター

### 調査研究事業発表会

平成27年2月19日  
日野市立教育センター 講堂



調査研究事業発表会は、2月の1回のみとなり、2年目を迎えます。今年の調査研究事業発表会は、松澤茂久所長の挨拶の後、①理科教育推進研究 ②郷土教育推進研究の2つの調査研究の発表が行われました。

各事業の詳しい活動内容は、本センター便りの3～4ページをご覧ください。

また、本センターの事業をまとめた教育センター紀要は、5月にWebサイトで公表されます。

平成26年度 日野市立教育センター

### 第2回 運営審議会

平成27年2月27日  
教育センター 会議室



本センターには、その運営について必要な事項を審議するために運営審議会（学識経験者など8人で構成）が設けられています。この度、本年度第2回目の審議会が行われ、3部・7系の事業の評価と課題、展望について、審議がなされました。

来年度は、本審議会の審議結果・提言、教育委員会・市内幼稚園・小学校・中学校各校等の意見及び調整を経て、新しくスタートすることになります。

# I 調査研究部

## 1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

### 一日野市の理数フロンティア校の活動一

日野市の理科フロンティア校は日野第四小学校と七生中学校です。本年度は2年目・最終年度になります。教材や指導法の開発と各校への発信、地区公開講座の開催、地域の教員への研修などの取り組みの一端を紹介します。

#### （1）日野第四小学校

研究主題：「学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上を目指して」

研究の重点・主体的に問題を見つける力の育成…体験活動や経験を通して、問題に気づく

- ・獲得した知識の活用…問題解決の様々な場面での自然事象への振り返り
- ・事実をもとに考え、交流する…話し合い活動の充実とそのため指導の工夫
- ・思考力、表現力の育成…白紙のノート等に学習過程を構造的に書く

取組： 8月 1日(金)夏季理科実技研修会(実験の基礎や指導法等)

9月12日(金)第3学年「光のせいしつ」(CST講座)

10月10日(金)第5学年「もののとけ方」(CST講座)

10月22日(水)校内研修会「小学校における授業づくり」

講師：日野市教育委員会指導主事 栗木勇先生

理科教育公開講座：1月16日(金)

- ・3～6年生全学年で、1学級以上で理科の授業を実施
- ・実験教室「楽しく理科実験」～ムラサキキャベツで調べよう～

講師：元潤徳小学校長 大澤 真人 先生

研究の成果と課題

○・問題解決学習の指導過程への理解が深まった。・表現力が高まり、自信を持って発言できた。

△・理由の根拠となる体験の不足 ・教材研究や観察 ・実験準備のための時間の確保

#### （2）七生中学校

研究主題：「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり」～一斉授業の中の個別支援～

研究の概要：ユニバーサルデザインの手法を教室での一斉授業にも導入する。そのために生徒個々の授業内容の理解を深め、積極的な授業参加を促す。

取組：6月23日(月)校内研究授業 第2学年「化学変化と物質の質量の規則性」

授業者・前田 博 主幹教諭

9月10日(水)小・中教研合同研修会 第1学年「身のまわりの物質」

授業者・高崎 紀昭 教諭

家庭・地区公開講座：1月17日(土)

- ・公開授業 第3学年「自然と人間」 授業者・高治 圭吾 主任教諭
- ・公開講座 「蛾の生態と私たちの暮らし」

講師：日本蛾類学会会長 岸田 泰則 先生

研究の成果と課題

○・生徒の授業内容への理解が高まった。

△・課題を明確にした授業 ・主体的に学ぶ授業



## 2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

### ふるさと教育係

#### 1 郷土教育の普及・啓発と研究発表会

郷土教育推進研究委員会では、「ふるさと日野」に愛着をもった「ひのっ子」を育成するため、成果の普及・啓発に努めています。特に、今年度4月に改定された第2次日野市学校教育基本構想では、基本方針3で、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる」教育の推進を挙げており、2月19日の研究発表会でもこの方針に基づいた発表を行いました。

#### 2 研究発表会報告事例（幼稚園、小学校）

##### （1）日野の昔話に親しむ（日野第五幼稚園 年少児）

これまでも昔話を活用し郷土の教育を推進させるために、紙芝居を利用したりしてきましたが、今回はこれと併せ安全教育を行いました。台風の事例をもとに川や園庭の様子に気づかせ「うなぎに救われた話」や「転がり落ちたお不動さま」の話をお話サークルの方から聞いたり、このお話にまつわるところに実際に行ったりしながら、台風の怖さを知ると共に郷土への理解を深めることができました。また、こうした取り組みを通して保護者へも郷土教育を広めることができました。



（実践第五幼稚園 森 陽子）

##### （2）だいすき！わたしのまち！（潤徳小学校 第1学年 生活科）

本校1年生は、生活科の時間に、学校や学区域にある公園を中心に活動しています。この単元におけるねらいは、子供たちにとっては知っているようで知らない「身近な地域」の様々な場所に繰り返し関わる活動を充実させることで、自分たちの地域が大好きになり、地域への親しみや愛着をもつことができると考えました。



こうした活動を繰り返すことで、子供たちは遊びと自然をうまく結びつけることができるようになり、休みの日には家族と地域に出かけるようにもなりました。課題は季節の移り変わりや学校行事を合わせることです。

（実践潤徳小学校 土方 瑠依）

##### （3）おどろう！いもいもおんど！（旭が丘小学校 第1学年 生活科）

旭が丘小学校の近くには、旭が丘中央公園があります。1年生の生活科では、この旭が丘中央公園に繰り返し散歩に行き、詩碑があることに気付いた児童の興味は「異聖歌」へ向き、教員が旭が丘中央公園で毎年開催されている「たき火祭」の存在を話し、動機付けを行いました。

こうして取組んだ結果、目的意識をもった活動ができ、その中から多くの気づきを得ることができました。また、課題としては、これからも地域への愛着を継続させる工夫が必要だということです。



毎年、旭が丘小学校では、伝統的に1・2年生が「いもいもパーティー」を行っています。この活動では、「たき火祭」で披露する「いもいも音頭」を2年生から教わります。四季を通して散歩に行くことで、入学前は、自分の家の周りのみが生活圏だった児童にとって、友達と近くの公園に行くことはわくわくどきどきの学習となりました。

（実践旭が丘小学校 岩井 美保）

### 3 ひのっ子教育 2 1 開発委員会

#### 基礎調査研究係

#### 1 研究主題

今年度も昨年度に引き続き『理科における魅力ある授業づくりプロジェクト』に基づく、授業研究を進めてきました。昨年度の研究では、小学校段階での問題解決能力の育成、中学校段階での科学的に探求する能力の育成が魅力ある理科授業を創造するために大切であり、観察・実験を充実させ、体験と言語活動の充実が子供たちの主体的な問題解決につながるということが実践を通して分かりました。これを受けて、今年度は観察・実験とその前後の一連の活動に焦点をあて、観察・実験前に行う問題の設定や仮説を立てる時の言語活動を充実させること、観察・実験後における結果の分析や考察を充実させることで、新たな見方や考え方を創り出すことが出来るのではないかと考え、研究主題を「主体的に課題を見つけ、観察・実験し、新たな見方・考え方を創り出す理科学習」としました。

昨年度、今年度と2年間を通じて、東京大学大学院教育学研究科 特任教授 日置光久先生のご指導を受け、理科における魅力ある授業づくりを実践してきました。

#### 2 研究発表会

1月20日(火) ひのっ子教育 2 1 開発委員会研究発表会 平山小学校

##### ① 公開授業 午後1時50～2時35分

単元「もののあたたまり方」

○4年1組 [金属板を使った実験] 授業者 夢が丘小学校 芹澤 瑛子 教諭

【目標】金属板を熱した時の温まり方を予想し、安全に実験をして、結果を文や図で記録することができる。

「金属板のあたたまり方を予想し、実際に金属板をアルコールランプで熱し、実験しました。さらに金属板の形を変えたときのあたたまり方を予想しました。」



○4年2組 [水のあたたまり方の問題づくり] 授業者 日野第七小学校 葛貫 裕介 教諭

【目標】水と金属のあたたまり方の違いに興味をもち、どのようなあたたまり方をするか文や図を使って予想を立て、実験方法を自分なりに考えることができる。

「既習の金属のあたたまり方を確認し、水のあたたまり方を金属のあたたまり方と比較しながら予想しました。また、日常の体験を含めながら班で話し合い、発表しました。」

○4年3組 [変形した金属板を使った授業] 授業者 平山小学校 佐藤 俊輔 教諭

【目標】金属は形を変えても熱した部分から順にあたたまっていくと考え、自分の考えを表現することができる。

「自分たちで考えた色々な形の金属板のあたたまり方を予想し、実際に実験しました。その実験結果を班ごとに発表し、結論をまとめました。」



##### ② 研究発表及び講演

講師 東京大学大学院教育学研究科

特任教授 日置 光久 先生

演題 「これからの理科学習に求められるもの」

## II 研修部

教職員研修係

### 若手教員の育成に取り組む教育センターの活動

今年度は、研修部専任4名と他の職務を兼任する所員2名の計6人で分担し、若手教員の授業観察及び指導を行いました。

研修名	人数 (小学校) (中学校)	担当する指導内容
若手教員育成研修 (1年次)	35名 (18名) (17名)	年3回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修 (2年次)	23名 (17名) (6名)	年1回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修
若手教員育成研修 (3年次)	42名 (23名) (19名)	年1回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修

#### 1 若手教員育成研修

##### (1) 1年次若手教員

年3回、担当する初任者のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。指導の観点としては、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたっています。

3回目の授業観察の頃には、若手教員にも落ち着きがみられ、児童・生徒の表情や発言から理解の度合いを把握し、授業を進めていくといったゆとりも見られるようになりました。



##### (2) 2年次及び3年次若手教員

年1回、2年次及び3年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。担当所員は2年次教員に対して、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業のねらいが明確で展開にも工夫のある学習指導案を作成ができるよう、また、課題に対する改善策を考えていけるよう具体的な指導を行っています。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力をつけていくための助言も行っています。



3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行えるよう、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力をつけていくための助言をしています。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導にあたっています。

#### 2 夏季研修 (2年次・3年次)

8月28日(木) 日野第一中学校を会場にして、若手教員育成研修が、2年次が午前、3年次が午後の半日単位で開催されました。最初に、グループに分かれ、各自が一学期に実践した指導事例を記録された映像を見ながら発表を行いました。その後、グループ協議では授業展開の方法、教材教具の工夫、改善すべき課題等について様々な意見や方策が出され、授業改善につながる多くのヒントを得ることができました。最後に再び全員が集まり、グループごとの発表を行い研修会は終了しました。担当所員は、午前と午後一日、グループ協議において、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行い、それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。



## Ⅲ 相談部

### 1 学校生活相談

#### 学校生活相談係・わかば教室

#### 学校生活相談適応指導教室「わかば教室」の活動

適応指導教室(「わかば教室」)は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安・不登校・登校しぶり等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・支援等を行なってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

#### 1 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子供と定期的に継続して面接を行いました。また、随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子供が精神的に安定し、目標を持った生活や復帰・進級・高校受験に向けての努力をするようになり、その重要性が益々増しています。また、保護者との密接な連絡・相談がよい結果を生んでいます。



e ラーニング

#### 2 教育活動

##### (1) 体験活動(わかばタイム・行事)

「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行なっています。

2学期は遠足・社会科見学・収穫祭等を行ないました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気・感動がありました。体験活動参加から学習活動参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。



書初め

##### (2) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子供の状況を掴み、子供についての共通理解のもとにより人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子供の多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達とわかば教室の生活時程に沿って行動できるようになりました。

##### (3) 個に応じた学習指導(5教科を中心にした学習タイム)

学年や学習進度、子供の思い等を考慮して時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・支援を行いました。また、自分のペースで学習ができる「ひのっ子学習システム」によるeラーニング(パソコンでの個別学習)に自ら取り組む姿も見られました。

#### 3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

「わかば教室」での教育相談・教育活動・生活指導・進路指導・その他の活動は、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力で支えられています。在籍校との連絡を密にし、子供たちの通室の様子や出欠状況を把握し「わかば教室」での子供たちの環境改善に役立てています。

活動では地域の方や学生ボランティア等の協力により、子供たちの環境改善に効果をあげています。また、登校支援コーディネーター、一般教育相談(エール)とも連携しています。

今年度も年度途中からの通室者が増え、2月現在45名が通室しています。また、4名が年度途中で学校へ復帰できました。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を抱えております。今後も子供理解に努め、子供たちが目標を持って向上していけるよう支援するとともに、一人でも多く学校に戻れるように学校や家庭、関係機関との連携・協力を強めていきたいと思っております。

## 「e-ラーニング」を活用した学習支援

### 登校支援員

不登校対策の観点から、不登校児童・生徒に日野市 e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用し、個に応じた学習支援を ICT 活用教育推進室と協力して実施しています。

今年度の e-ラーニングを活用した学習支援は、日野市適応指導教室「わかば教室」に通室している児童・生徒とわかば教室に通室できない児童・生徒が対象です。

2月末現在、29名の児童・生徒が e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用しました。

わかば教室に通室している児童・生徒は、年間を通し週2日(固定学習日:月曜日・水曜日)e-ラーニングを活用して学習をしています。わかば教室では、e-ラーニング担当者が一人一人の能力に応じた個別学習課題取り組みへの支援をしています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容は進度に応じて選んで学習できるので学力への不安が軽減されています。さらに、学習したいという意欲の芽生えは、学校復帰へのきっかけや進学への希望の一因となっています。

※わかば教室見学者は、固定学習日(月曜日・水曜日)に e-ラーニングで体験学習が可能です。※長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にあり、わかば教に通室できない児童・生徒は、居場所(わかば教室 e-ラーニング学習室)で水曜日(わかば教室下校時刻後午後2時～4時)に学習できます。学校を通して事前にわかば教室登校支援員に確認してください。

## 不登校改善へ向けての取組み

### 登校支援コーディネーター

#### 1 適応状況調査の活用

日野サンライズプロジェクトの提言によって各学校は適応状況調査を実施しています。適応状況調査は毎月校内委員会での検討を経て作成され、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。適応状況調査には、不登校の状況や学校の取組み等が記載されています。

登校支援コーディネーターは、適応状況調査の集計・分析を基に資料を作成して、毎月開催される定例の生活指導主任研修会を通じて、不登校改善に向けての情報提供に努めてきました。

また、本年度より新設された日野市発達・教育支援センター(エール)の教育相談担当カウンセラーやスクールソーシャルワーカー(SSW)への情報提供を通して、関係機関同士の連携・協力ができるようにと考えてきました。

今後は、適応状況調査の記載内容を参考にしながら、登校支援コーディネーターとしての助言活動をさらに進めていきたいと考えています。

#### 2 学校訪問とケース会議への参加

市内25校全校の学校訪問を前期・後期にわけ、わかば教室担当者と合同で行ってきました。また、今年度より配置されたSSWとともに各学校を訪問して、適応状況調査の結果を活かしながら、SSWの活用に向けて学校のニーズの把握に努めるとともに、不登校等への取り組みの一つとして学校がケース会議を開催する際、登校支援コーディネーターもケース会議のメンバーとして、不登校問題の改善に向けての協議に継続して参加してきました。

#### 3 まとめ

不登校の問題は学年が上がるにしたがって長期化、重度化していく傾向にあります。また、不登校になる理由も複雑であるため解決の糸口を見出すのは容易ではありません。しかし、各学校は様々な対応策をとりながら不登校問題の解決に向けてよく努力しています。登校支援コーディネーターとして日野サンライズプロジェクトの提言に基づいて関係機関との連携を図り学校への支援に努めていきます。

# 教育資料・広報係より

## 教育センター・Webサイトの紹介

日野市研究奨励校の研究の成果や各校の研究概要を紹介

### 1 教育情報センターとしての機能の充実

本教育センターでは、学校や教員の児童・生徒の指導や学校運営に対して必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

教育センターWebサイトはそのうちの1つとして力を入れています。このサイトでは、主にセンターの日常的な活動の報告や教育相談、学校生活相談の活動の紹介を行っています。

### 2 日野市公立学校の研究成果の公開

本サイトの特色としては、日野市内の公立小・中学校が進める研修活動の成果を広く紹介していることがあげられます。

「日野市公立学校の研究紀要・集録の紹介」という形で、研究の内容を概要で紹介しています。また、日野市教育委員会研究奨励校（本年度は5校）の発表会の日程や研究紀要の集録の概要と共に、PDFファイルの形で、紀要・集録の冊子や当日の公開授業指導案をダウンロードできるようにしています。

2月23日現在、平成25・26年度公開の小・中学校研究紀要・集録の合計ダウンロード回数は、7308回を超え、日野市内外からの教員、研究機関の教育の実践的な研究の資料として活用されています。

今後とも、本センターのWebサイトの充実をしていきます。

#### 研究紀要等各種資料のメニュー

- ・ひのっ子教育21開発委員会報告
- ・教育センターの活動報告
  - 教育センター紀要
  - 教育センター便り
- ・郷土教育指導資料
  - 第1集～9集
- ・日野市立小・中学校校内研究集録
- ・要覧

## 新しく購入した本の紹介(昨年11月購入)

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出いたします。

- ・ゼロから学べる学級経営 長瀬拓也著 明治図書出版
  - ・教師力をアップする100の習慣 大塚謙二著 明治図書出版
  - ・《場面&対応例でわかる》  
プロ教師の「成功する」保護者対応の極意  
(塾最強コンサルタント直伝! 4) 中土井鉄信著 明治図書出版
  - ・教室がシーンとなる“とっておきの話”100選  
中学生編(TOSS教師の読み聞かせシリーズ4) 師尾喜代子編 明治図書出版
- <1月に追加購入した本>
- ・「対人関係療法」の精神科医が教える「苦手な人」 水島広子著 大和出版  
とのつき合いがラクになる本
  - ・対人関係療法のプロが教える誰と会っても疲れ 水島広子著 日本実業出版  
ない「気づかい」のコツ